

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190900066		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム久喜本町		
所在地	埼玉県久喜市本町5-2-18		
自己評価作成日	平成29年3月24日	評価結果市町村受理日	平成29年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-saitama.or.jp/saitama22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成 29 年 3 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「愛の家グループホーム久喜本町」は、木造平屋建てになっており、入居者様・スタッフが自由にユニット間を行き来し、皆と交流が図れる開放感があり、活気あるホームです。
 入居者様・ご家族の希望や思い、そして一人ひとりの入居者様の個性を理解・把握しその想いを大切にしています。
 同じ時間を共有し、寄り添い・心に隠れている想いを感じ、その想いを引き出し、想い・夢が叶えられるよう取り組んでいます。
 又、季節・ホームの行事等では、ご家族の方々、地域の方々に参加して頂き、交流を図り、信頼関係を構築出来るよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の他に、職員皆で考えて作った事業所独自のスローガン「家庭的な雰囲気大切にしていきながら入居者様にとって過ごしやすいホーム、穏やかで温かい笑顔のあるホームにします」を掲げている。利用者に穏やかな笑顔でいてもらうために、職員は焦らず慌てずにゆっくりとした態度でサービスを提供することを心がけている。管理者は、職員が気持ちに余裕をもって仕事ができるように職員の公私にわたって気を配っている。防災に関しては、地域の方々と運営推進委員会や日頃の話し合いを通して情報を交換し、協力し合う関係にある。近隣の方からは「ここ(事業所)は夜も電気がついていて、いつも職員がいる。防犯上ここがあるので安心だね。」と言われている。事業所は市が開催する災害訓練にも積極的に参加して協力体制を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた会社の理念・又ホームでの理念を作成し申し送り時の唱和・又は目に付きやすい場所に掲示し、内容を管理者・職員で共有・実践に繋がられるよう取り組んでいる。	職員は、利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活ができるように支援をしている。利用者一人ひとりの生活に寄り添い、その人に合った環境をゆったりとした気持ちで提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との情報の共有をし、散歩時にも挨拶をするなど顔馴染みになっている。行事等についても近隣の方々を呼び日常的に交流を深めている。また、久喜市の祭りや行事にも積極的に参加している。	地域のゴミ拾い運動に職員が参加し、利用者は散歩の途中で近所の方から庭でのお茶飲みに誘ってもらっている。古くから住む方や民生委員とのつながりが多く、地域の一員として交流を重ねている。	現在は社会福祉協議会を通じて踊り、楽器演奏などのボランティアを受け入れている。これからは近隣の保育園、幼稚園、小中学校ともつながりを持ち、交流を通して今以上に地域と密に付き合えることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の人の理解や支援・取り組みについて話し、又食事会等を開き、地域の方々に認知症の人の生活の場を感じて頂いている。 随時、ホームにて相談会を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、ホームでの取り組み状況等について報告し話し合いを行っている。その意見をサービス向上に活かしている。	事業所からは2か月間の行事や業務の報告を行い、地域と行政からは災害時の避難対策について意見がなされている。近隣の住人の受け入れや備蓄品の確認等協力体制が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市町村担当者と連絡・相談・訪問しホームの実情・取り組みについて意見交換を行っている。信頼関係の構築、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市とは書類提出や電話等で連絡をとっている。市からは災害時の相談を受けている。管理者と市担当者とは付き合いが長く、密に連携を取り合っている。文化会館での芸術作品展へは利用者と共に見学に行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の勉強会・研修会を開き、全スタッフが理解するよう努めている。玄関の施錠をせず、スタッフの見守りにて対応している。また身体拘束をしないケアを継続して行っている。	身体拘束をしないケアについての勉強会やチェック表の確認により職員の意識は高い。管理者は職員の気持ちの安定を重視し、利用者に対して常に余裕のある穏やかな気持ちで接することができるように気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、定期的に勉強会を開き学ぶ機会を設けている。又意識・注意を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係機関・家族・関係者と話し合い、活用できるように取り組んでいるが、今後、勉強会も多く取り入れていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時の際は、十分な説明を行いながら、又利用者・家族の不安や疑問点を聞き出し十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族様アンケートを実施・玄関には意見書・苦情相談窓口等設置している。また、運営推進会議、ケアカンファレンスの他、御家族との会話を密に行い、ニーズを聞きだすことに努めている。	家族とは面会時に気軽に話ができるような雰囲気の中で意見や要望を聞くように努めている。何か提案や問題があれば迅速に対応する姿勢である。家族アンケートから食事のメニュー表を作り毎月送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議・個別面談を実施。又年1回の職員満足度アンケートを実施し、意見や提案を聞き、反映させる取り組みを行っている。	フロア会議や個人面談で職員の意見を聞いている。利用者への対応がマンネリ化しないように、皆で新しい取り組みを作るために意見を集約している。職員ペースではなく、常に利用者を中心に考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度・表彰制度を実施し各自が向上心を持って働けるよう現場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を把握し実践も含めながら、月1回の勉強会を開き知識・技術の向上を図っている。又法人内外でも研修を受ける情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の全国事例実践研究会や他ホームでの見学等を行い質の向上の為に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族と話し合いの機会を多く設け、要望等に耳を傾けながら、安心を確保すると共に信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と話し合う機会を多く設け、要望等に耳を傾け、支援に取り入れていくと共に、ホームで暮らす中で、本人にとってのメリットを加えながら、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの機会を多く取り、状況・情報を見極めながら、地域におけるサービス、資源を取り入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況や状態を把握し出来ることは自分で行って頂くよう声掛けを行う。スタッフが間に入り皆で暮らしを共にする者同士が協力しあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの暮らしの状況・状態の情報を御家族との会話やお手紙を通じて共有している。又、行事等では家族を呼び絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人のホーム来所や、馴染みの場所への外出等、関係が途切れないように支援に努めている。ホームの来所が困難な方については、定期的に入居者様のご様子がかかるようお手紙や電話での対応をし関係を構築している。	友人からの手紙、電話やご近所だった方の来訪がある。家族と共に墓参りや馴染みの蕎麦屋へ行く方もいる。「自分が生まれた家」に帰りたい方には温かい気持ちで接して、その思いを共有するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の人間関係も把握し、1人ひとりが孤立しないよう利用者同士の趣味の活動等、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ホームでの行事の呼び掛けや、又本人・家族の経過をフォローし、関係性を大切にしながら相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から話す機会を多く取り、本人の希望・意向の把握にも努めている。困難事例においても、本人本位に検討している。また、本人が思いを打ち明けられない際は、他の入居者様を交えて日常的な会話や動作の中でニーズを把握していく。	入居時に利用者の生活歴や嗜好を聞き、その方を理解することが大切であり、基本であると考えている。美味しいものが食べたい、行きたいところは何処?と日々の会話の中から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴・馴染みの暮らし方、又関係者からこれまでのサービス利用の経過等の情報を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状況の変化・有する能力の現状把握に努め、記録等に残しながら、モニタリングを行い、現状の改善、向上を行なえるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の状態について、申し送りを活用しながら、情報を共有している。そのニーズを捉え、本人・家族・主治医等関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子や変化を職員全員で共有し、本人の思いや希望を捉えてケアプランに反映させている。皆と仲良く健康でレベルを維持し、できる事は自分でやってほしいという家族の希望にも沿うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報を個別の記録に残し、関係者と情報の共有を行い、実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームだけではなく、本人・家族の状況に合わせた、外部の支援、必要な機関等に情報の共有を行いサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の、ボランティア、消防訓練やホームでの行事には、地域の方々にも参加して頂いている。又地域の行事には、スタッフ・利用者、家族も参加し楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と、家族の希望を重視していきながら、本人の心身の変化等の情報を主治医とも共有し、信頼関係を築きながら適切な医療を受けられよう支援をしている。	月2回の内科訪問診療と週1回の歯科訪問診療がある。週5回看護師が訪れている。主治医の紹介状による外部受診時にはサマリーを提供している。基本家族同行だが困難な場合には職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、日々の状況の変化について、情報を共有し、又訪問看護以外でも連絡を密にとり適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活・本人の心身の状況を共有し、入院時であっても早期に退院出来るよう関係者と情報の交換や相談に努めている。普段より病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも重度化した場合・終末期のあり方について説明し同意をえながら、ホームでの方針を共有している。又急変に対しても地域の病院と連携し対応が出来るよう取り組んでいる。	家族へは、入居時に事業所としての指針を説明している。現在まで看取りはないが、病院の関係者とは日頃から話し合っている。家族の協力が不可欠だが、現時点では家族は食事が困難になったり医療が必要になった場合には病院を希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変・事故発生時の勉強会や研修会を開き、訓練も行いながら実践力を身につけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、地域の方々も参加し、昼夜での訓練を行い、消防職員にアドバイスを頂きながら、全職員が避難方法を身につけられよう取り組んでいる。又久喜市開催の災害訓練にも参加し協力体制を築いている。	年2回消防署立ち会いの下、夜間想定を含めて避難訓練を実施している。近所の方や民生委員とは日頃から地震対策について話をしている。事業所が24時間態勢なので近隣からは安心との声が聞かれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や研修会を開き常にスタッフが意識し、個人の人格を尊重しながら、行動や言葉を選びプライバシーを損ねないよう声かけや対応をしている。	言葉遣いやトイレ支援時の対応は利用者個々に合わせている。「～ちゃん」と呼ばれた方、「トイレのカーテンは開けておいて」と言う方もいる中で、利用者の意向をふまえた対応をするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの関わり合いを多く持ち、信頼関係を構築し自己決定・自分の想いが表せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの時間を把握・大切に自己決定が出来るよう支援し、希望にそった生活を過ごして頂くよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人ひとりの、状況・状態を見極め、自己決定ができるよう、声掛けを行い、衣類の選択・整容等の支援が出来るよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な入居者様については、スタッフと共に本人が出来る調理やおやつ作りを手伝っていただき、又準備や食事の片付けも行っていただいている。 見た目からも食欲を引き立てられるよう取り組みにも心がけている。	オープンキッチンからは調理の様子や匂いを感じられる。昼食に焼きそばやお好み焼き、おやつにホットケーキなどを一緒に作り楽しんでいる。行事食やマグロの解体ショー、出前や外食も好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態・状況を把握し、医師、看護師と連携しながら、食事摂取量・水分摂取量等を記録に残し、安心して楽しみながら食事が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状況・状態・入れ歯の有無を把握し、個々にあった口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態を把握し、又日々の変化に気づけるよう排泄チェック表を活用している。又トイレで自己排泄できるよう個々に合わせた自立支援を行っている。	排泄チェック表を基に一人ひとりに合った声かけをしている。定期的に食事の前後に誘導をしている。家族の希望もふまえて座位が保たれる方にはトイレ排泄支援に努め、おむつ使用を減らすようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用しながら、把握し、飲食物の工夫・適度な運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望が叶うよう入浴の調整等を行い、体調・状態を確認しながら、入浴剤や個々に合わせた楽しみながら入浴ができるよう取り組んでいる。	週3回、午後に入浴支援をしている。入浴拒否の方は1週間までは本人の意思を尊重しているが、以後は衛生面を考えて職員が工夫して入浴に誘っている。利用者と1対1で話ができる貴重な時間でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、整えながら安心して気持ちよく眠れるように、共有認識を持ち、取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のクリニックノートを作成し、目的・副作用・用法・用量についても、理解するよう努めている。薬変更時も主治医の説明を受け、医師の指示の下、スタッフ同志で確認を行ないながら、服薬をしていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前に生活歴・趣味を確認し張り合い・喜びあるホーム生活を過ごして頂くよう取り組んでいる。個々に合わせた趣味を活かし個別での趣味活動も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム全体での季節ごとの外出を行っている。又個別での散歩や外出・外食、本人の希望に添うように家族・地域の方々の協力・支援を頂き取り組んでいる。	体調と天候をみながら散歩を日課にしている。近くの店への職員の買い物に利用者も同行し、自分のおやつを買うこともある。近くの神社へ初詣、公園でのお花見、動物公園へ行くなど季節ごとの外出も楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時は、個々の力や希望に応じてスタッフがお金をお預りし、会計の際にお金をお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム固定電話からの大切な人への連絡・携帯電話からの連絡等、支援し、手紙についてもやり取りが出来るよう取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホーム内についても、家にいるような生活感や季節に合わせた物を都度取り入れ、居心地良く気持ちよく生活が送れるような工夫をしている。	館内は加湿器で快適な湿度に保たれている。壁の装飾は飾りすぎず、落ち着いた色調でバランスを考えながら行事の写真や作品を掲示している。リビングの一角には利用者が使いやすい段差のない和室がある。ユニット毎の行き来も自由である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはコタツ・リビングにはソファを置き、少人数でも気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活していた馴染みのある使い慣れた物等、本人と家族と相談しながら居室に置いている。居心地よく生活して頂くよう工夫している。	居室のドアには毛筆で自筆の名前を貼り、分かりやすくしている。床に絨毯を敷き、和式布団使用の方もいる。TV、椅子、仏壇等馴染みの物を持ち込み、好みのものを飾り、家庭での暮らしを継続させている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース・居室と環境整備し、分かりやすく掲示し安全で安心した生活が送れるよう又、自立出来るよう工夫している。		